

ご自由にお持ち帰りください

さくらだより



SAKURA

日本医療機能評価機構認定



健・康・通・信

さくら病院の理念

愛の心と確かな医療技術を以って社会に奉仕する。

Vol. 64



事務次長
松本 正幸

今年、ラグビーワールドカップがアジアで初めて日本で開催されました。日本チームの活躍もあって、日本中が大変な盛り上がりを見せました。

この日本代表チームの躍進に詳細な情報の収集と分析が役立てられていたことが紹介されていました。

ラグビーで得点するには相手陣地で、立ってプレイするプレイヤーの数的優位が非常に重要です。タックルなどで倒れこんだ選手が早く戦線復帰するためにかねてから“倒れてから3秒以内で起き上がる”が指標化されていました。2年前、新たに情報分析アナリストが出した分析で、“立ってから3歩の動き出しの速さ”が重要であるとわかったため、それを指標にして練習を行い、現在の日本代表チームの素早いオフェンスやディフェンスに繋がったそうです。

当院では3年前に電子カルテを導入し、各部門システムも連動する形で整備しました。診療情報管理課を中心に分析可能となった様々なデータを使用し、地域での自院の役割や医療サービスの向上に繋がる明確で具体的な指標の策定を心がけています。さくら病院は、ラグビー日本代表の例を参考に、今後も情報処理機能の拡充・強化を行い、病院活動の改善のキーとなる指標を作りたいと考えています。よろしくお願いいたします。

2019/
10月
29日(火)

いきいき公開セミナー

テーマ:「みんなに身近な糖尿病のはなし」

糖尿病内科 河野 智愛 先生

今回のいきいき公開セミナーは生活習慣病の一つ「糖尿病」をテーマに開催しました。糖尿病とは、インスリンの分泌が不足したり、働きが悪くなることで血糖値の高い状態が続き、気づかぬうちに様々な合併症を引き起こす怖い病気です。患者さんの数は日本国内だけでなく世界中で増え続けています。合併症を起こさない、進まないよう血糖値をコントロールして生活の質を保つことが治療の目標となります。

治療は食事療法、運動療法、薬物療法がありますが、全ての基本は食事療法です。糖尿病になる前の予備軍やメタボリックシンドロームの方でも動脈硬化はすすんでおり、その原因として食後高血糖が注目されています。高血糖になりにくい食べ方として、①おかずをしつかりとること②野菜→タンパク質→炭水化物の順番にとること③炭水化物の重ね食いをしないことを紹介しました。もちろん量とバランスを考えて食べることが大前提ですが、是非実践してみてください。

糖尿病は血液検査でわかりますので、血糖値の気になる方はかかりつけの医師にご相談ください。



糖尿病外来

外来 古賀 順子 看護師

当院の外来診療には、糖尿病外来があります。糖尿病でインスリン注射を使用している患者様が受診された際に、月に1度糖尿病療養指導を行っています。糖尿病療養指導とは、看護師、薬剤師、栄養士が医師の指示のもと患者様が在宅で生活する上で自己管理できるよう指導を行うことです。

インスリンの自己注射の手順や血糖測定の手順などを指導するほか、在宅での物品の数量などを確認しています。また症状に合わせた対処法などを指導しています。なお、入院中にインスリンが開始になった患者様は病棟と連携し血糖測定器や物品などを渡し、退院後も外来で継続して指導を行っています。外来では、患者様と生活状況を確認し問題を見つけ、患者様と一緒に改善策を考えています。何かありましたら外来看護師までお声掛けください。



秋のお月見会

2内科病棟



9月13日に今年で第4回目となる秋のお月見会を開催しました。今年もボランティアの方々に三線や舞踏、フラダンス、三味線を披露して頂き、患者様、ご家族、そして私たち職員も大変素晴らしい時間を過ごす事が出来ました。

患者様より「歌も踊りも良かったね。入院中にこんな良いものがみられるとは思わなかったよ」と有り難いお言葉を頂戴しております。

このイベントを通して患者様の日頃のストレスが和らぎ、穏やかな時間を共有することが出来て私たち職員は嬉しく思います。ご協力、ご参加頂きました皆様、誠にありがとうございました。



部署紹介

臨床検査科

臨床検査科は、現在臨床検査技師3名のスタッフで業務に取り組んでいます。

検査は検体検査、生理検査を行っています。健康診断も多く請け負っています。

検体検査は尿・便・血液などを機器や顕微鏡などを用いて分析します。院内では、尿・便・血液・生化学・インフルエンザなど様々な項目の検査を行っており、緊急の場合でも迅速に対応しています。

病理（内視鏡で採取したポリープなど）、細菌、特殊な検査は医師会臨床検査センターに依頼をしています。

生理検査は、直接患者様と接し様々な部位を機器を用いて検査します。

代表的な検査では心電図検査、超音波検査、肺機能検査、聴力検査などがあります。

項目によっては短時間で終了するもの、ある程度時間を要するもの、患者様自身の努力が必要な検査などがあります。

検査の際は説明をしっかりと行い、緊張を和らげるように配慮しています。

検査の件でわからないことがあれば、スタッフにお申し付けください。ただし、臨床検査技師には法的規制があるため、検査結果に関しては担当医師にお尋ねください。

1人でも多くの患者様に質の良い医療を提供できるように、今後もスタッフ一同取り組んでいきたいと思っております。



さくら会

さくらユニットでは毎年、大切な方を亡くされた御遺族との語らいの場として「さくら会」を開催しています。

今年の「さくら会」ではギターとフルートの演奏に癒され、御遺族と共に故人の思い出を語り合いました。

また、患者様や御家族の憩いの場として毎月第3木曜日に「さくらカフェ」を開催しています。お気軽にお越しください。スタッフ一同お待ちしております。



BLS (一次救命処置) 研修

BLS研修は全職員を対象とした研修です。看護師は毎年、コメディカルは2年に1回の研修となっています。その他、新入職者研修、ケアワーカー研修でも行っています。研修では一次救命処置の基本となる胸骨圧迫と人工呼吸による心肺蘇生、AEDの使い方について説明を行います。その後、参加者は練習用の人形を使って実施します。また、実際に傷病者を発見し救急要請を行い、AEDを使用したCPRを実施するという一連の流れも体験してもらっています。

BLSは専門の器具や薬剤を必要としない救命処置です。医師・看護師など医療従事者でなくても誰もが行うことができます。病院内外でいつ、誰が傷病者の第一発見者となるか分かりません。そのような場面に遭遇した時に自信をもって救命処置を行えることを目的として実施しています。1時間程度の研修ではありますが、参加者からは「BLSについて振り返ることができた」「BLSの研修を受けていて実際の現場で役に立った」などの意見が聞かれています。

この研修がBLSについて思い出す良いきっかけになればと思っています。



感染広報だより

いよいよインフルエンザ・ノロウイルスの流行の季節になりました。
インフルエンザ・ノロウイルスの特徴、注意するポイントについてまとめました。

インフルエンザとは？

インフルエンザは、インフルエンザウイルスによって引き起こされる呼吸器感染症です。

風邪に比べて症状が重く、乳幼児や高齢者では重症化することもあります。



受診・検査はいつ受ければいいのか？

迅速診断キットによるインフルエンザの検査を受けるには、**発症後12時間から48時間前後が最適**と考えられています。(インフルエンザウイルスの量がある一定以上に達していないと陽性と判定されにくい) 抗インフルエンザ薬は、**インフルエンザに罹患後48時間以内に**内服しないと効果が期待できません。

インフルエンザウイルスに感染すると、急な発熱や、筋肉痛などの重い全身症状が出るため動きづらいかもかもしれませんが、医療機関は必ず早期に受診するようにしましょう。

＜ワクチンによる予防法＞

最も確実な予防は流行前にワクチン接種を受けることです。

・ワクチン接種の時期

インフルエンザワクチンは接種してから実際に効果を発揮するまでに約2週間かかります。通常、流行期間が**12〜3月**ですから、**11月中旬頃**までには接種を終えておくことより効果的でしょう。

インフルエンザの予防法

インフルエンザ予防の基本は、**手洗い・うがい**です!!

正しい手洗い・うがいのしかたを身につけましょう。(マスクの着用も効果的です)

ノロウイルスとは？

ノロウイルスは汚染された2枚貝の生食、汚染された手指や環境面を介して感染します。

特に冬季に多いですが、1年を通して発生し、幅広い年齢層に胃腸炎をおこします。

ノロウイルスは感染力が非常に強いため、10〜100個という少量で発症します。

症状が消失後も3〜7日間ほどは患者便中にウイルスが排出されるため、二次感染にも注意が必要です。

ノロウイルスによる感染性胃腸炎には特異的な治療法がないため、感染発生を予防することが大切です。

感染を予防するにはどうしたらいいの？

石けんと流水による手洗いが有効です!!

ノロウイルス対策では、特に、トイレ後、汚物処理やオムツ交換後、嘔吐物処理後、食事前などに手洗いを行うことが重要です。

感染したら消毒はどうすればいいの？

・アルコール消毒は効果が期待できません。

・調理器具や雑巾などの消毒は、塩素系漂白剤を使用します。定期的に煮沸消毒するとより安全です。

・吐物の処理は、ペーパータオルなどを使うようにします。吐物や便が付いた衣類などは、塩素系漂白剤で浸けおき洗った後、他の衣類と分けて洗濯します。

こんにちは!

地域医療連携室です。 どうぞお気軽にご相談ください。

地域医療連携室(医療介護相談室)では、患者様・ご家族からの様々なご相談を承っています。
例えば、当院への入院のご相談・退院後の生活に対する不安・介護サービス等社会資源のご紹介・経済的な問題についてなど、一緒に考えさせていただきます。
また、患者様へ適切な医療が提供できるよう、地域の診療所や病院・施設・在宅サービス事業所等との連携に努めています。
どうぞお気軽にお声かけください。

地域医療連携室

TEL 092-864-1245

FAX 092-864-1213

受付 平日:9:00~17:00
土曜日:9:00~12:30

担当者 室長 吉瀬
副室長 松山
看護師 井上
医療ソーシャルワーカー 橋本・足立
事務 谷山



外来診察表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	第1診察室	江頭 省吾 内科/循環器内科	江頭 芳樹 総合内科	江頭 芳樹 総合内科	天野 角哉 内科/消化器内科	江頭 省吾 内科/循環器内科
	第2診察室	小田 晋也 内科/循環器内科	村上 修二 内科/心療内科	岩崎 敬雄 リハビリテーション科	江頭 啓介 総合内科	江頭 啓介 総合内科
	第3診察室	村上 祐一 内科/消化器内科	王寺 恒治 内科/消化器内科	秋満 俊介 内科/循環器内科	平野 涼介 呼吸器内科	王寺 恒治 内科/消化器内科
	第5診察室	田中 啓二 健康診断	矢野 雅也 循環器内科	天野 角哉 内科/消化器内科	田中 啓二 健康診断	田邊 桃香 内科
	第6診察室	楠原 浩之 内科/消化器内科	河野 智愛 内科/糖尿病内科	小田 晋也 内科/循環器内科	堀端 智子 内科/消化器内科	
	午後	第1診察室	田邊 桃香 内科	江頭 省吾 内科/循環器内科	石津 昌直 腫瘍血液内科	村上 祐一 内科/消化器内科
第2診察室		村上 修二 内科/心療内科	河野 博之 心臓外科	米良 英和 神経内科	江頭 啓介 総合内科	江頭 啓介 総合内科
第3診察室		秋満 俊介 内科/循環器内科	山尾 有加 糖尿病内科	王寺 恒治 内科/消化器内科	河野 智愛 内科/糖尿病内科	秋満 俊介 内科/循環器内科
第5診察室		田中 啓二 健康診断		堀端 智子 内科/消化器内科		中国 智美 乙成 淳 心療内科
第6診察室		河野 智愛 内科/糖尿病内科		田中 啓二 健康診断	楠原 浩之 内科/緩和ケア内科	知念 祥太郎 腫瘍血液内科

病院までの交通アクセス

- 地下鉄七隈線/福大前下車1番出口より徒歩10分
- 都市高速/堤ランプより車で3分
- 車/天神より約30分(本館地下駐車場、本館東側に第2駐車場があります。)
- バス/西鉄バス(さくら病院前バス停下車)の場合
 - 天神方面より:協和ビル前のりば片江(営)行.....13番
 - 西鉄大橋駅より:.....外環700番
- 西鉄バス(西片江一丁目バス停下車)の場合
 - 天神方面より:警固神社・三越前のりば片江(営)行.....114番
協和ビル前のりば片江(営)行.....12・140番
 - 西新・飯倉方面(脇山口)より:.....95番
 - 博多駅方面より:博多駅前のりば片江(営)行.....16番
博多バスターミナル片江(営)行.....12・114番
 - 検原・片江方面より:.....6・12・16・95・114・140番



医療法人社団 江頭会 さくら病院
在宅医療介護センターさくら

社会福祉法人 桜花会
ライフケア大手門

サービス付き高齢者向け住宅
ホスピコート長尾

社会福祉法人 桜花会
特別養護老人ホーム ライフケアしかた

住宅型有料老人ホーム
アドバンスケア長尾

社会福祉法人 桜花会
ライフケア柏原

〒814-0143 福岡市城南区南片江6丁目2-32 TEL092-864-1212 FAX092-865-4570
E-mail:info@sakurahp.or.jp ホームページ:http://www.sakurahp.or.jp/

直通TEL 1内科 092-872-5611
事務所 092-801-7386 2内科 092-872-5612
ユニット 092-872-5615 3内科 092-872-5613

2019年12月(令和元年)